

2015年11月 会社の雰囲気を1W^{7分}明るくするコミュレポ

皆さん、こんにちは。私は、コミュニケーションについての気づきを毎月1回、振り返ることにしています。せっかくなので日頃お世話になっている皆さんにもシェアできればと思いこのようなレポートを記述することにしました。ご笑読頂ければ幸いです。

丹羽/佐之

自分の“幸せ”は…

先月号に続き、ベトナム ホーチミンのクリニック視察ツアーのお話です。この企画は、JVBS（個人企業）の吉成友さんをお願いしました。吉成さんは現在、ベトナム在住で2カ月に1回程度、帰国し、ベトナムと行き来する生活をされています。吉成さんの仕事はビジネスツアーの個別訪問先交渉から始まり、通訳やハイヤーの手配、参加者のホテルや航空券の手配といったことに及びます。



それ以外では、ベトナム進出先企業のコンサルティングや現地調査なども個人で行われています。帰国すると、日本のクライアント訪問や書籍の購入などを行い、またベトナムに戻る生活。すっかりベトナム生活馴染まれた吉成さんに「ベトナムに住む魅力は何ですか？」と聞いてみました。すると「気候が安定していて過ごしやすいです、また煩わしい人間関係もなく仕事がしやすく、ベトナム人はおおらかで付き合いやすいですね」とおっしゃられました。また、日本より安い物価のため月々10万円もあれば、セブな生活ができるのも魅力のようです。吉成さん曰く「週2回マッサージに通い、高級スポーツクラブに通い、毎日1回は和食を食べる」生活です。都市部でも平均月収5万円以下のため、10万円あれば、これぐらいの生活は余裕でできるのでしょうか。吉成さん以外にもベトナムに住む日本人6人程にお会いしてお話をお聞きしましたが、皆共通することがあります。それは「ベトナムという国、文化、人柄がこよなく好き」ということが、彼らの目からひしひしと伝わってくることです。「ベトナムは経済的には発展途上国ですが、**家族を大事にして愛情豊かに生活する点では先進国**であります」と言われた方がいましたが、私も短い滞在ながら、これは言い当てているなと思いました。

そして、本当に「個人で海外に仕事の拠点を置きながら、2、3カ月に1回日本に帰る」生活ということが、企業に属さず個人でできる時代になったことを痛感しました。それを可能にした1つは移動コストと利便性です。ベトナムなら1回5～8万円で日本と往復できます。航空便も羽田、関空から毎日就航しており、いつでも行き来できます。そこに加えて、東南アジアの高度な成長性。ベトナムに限って言えば、日本の40年前と同じで、チャンスは無数にあります。1カ月も滞在すれば、3つは具体的な事業プランが生まれる国でしょう。豊かで自由が多い日本ですが、ストレスにさらされ生きづらさを感じる人も多いです。日本に縛られて「通勤電車、会社組織の1人、憂さ晴らしの飲み会」の連続から脱却する若い日本人はこれからも増え続けてくるでしょう。となると、改めて「何が幸せな生き方」なのか自分の中の答えやスタイルを作ることこそが**本当の“自由”を手にする条件**となります。自身が幸せと感じる“文化”を持つ国で生きれば、その国の持つ文化から生まれるデメリットや問題も怒りやストレスの種ではなく、“仕方ない！”と心の自由が広がるのかもしれない。